

# 法政大学 vs 東海大学

4月14日(日)  
11:30K.O.  
法大G

開幕戦を落としてしまったチーム同士の対戦。どちらも攻撃的な試合展開を目指しながら、初戦では先手を取られて流れをつかめず、自分たちの形を見せられなかっただけに、今節はどちらが先制攻撃を仕掛けるか。

法大は1部リーグから降格して2年、なかなか結果を出せないシーズンが続いた。その悔しさを今年は繰り返さないようにと臨んだはずが、初戦は青学大に1-4の敗戦。10分で先制を許し、一度はCKで追いついたものの、後半は風上に立った青学大の攻撃に押し込まれ、「積極的に攻撃ができなかったのが敗因」(大石和孝監督)。相手の攻撃に対して前半はプレスもかけられていたが、後半の風に乗った長いボールへの対応に苦慮し、攻撃態勢に切り替えることがままならなかった。失点が多かった昨季の反省点がいきなり出てしまった開幕戦となったが、嫌な流れをつくらないように切り替えたい。やはり、いかに攻撃で主導権を握れるかが鍵だ。

対する東海大も、初戦は駒大に1-4で敗れた。こちらは2点を先行され、前半のうちに1点を返して反撃に出たが、後半は押し込まれる展開が続いてしまった。今季から監督が代わり、システムも3バックとなって新たな東海大の姿を見せてくると思われるが、初戦は駒大の

前に力負けといった印象だ。内山秀一監督も「パスでボールを動かして攻撃しようとトレーニングを積んできたが、駒大の力に及ばなかった」と話した。しかし、得点につながったMF湯川純平(3年)→FW峯勇斗(3年)→MF塩田光(4年)というコンビネーションなどは今季の攻撃陣の目指す形が表現されており、攻守のバランスが取れてくれれば可能性が開けてきそうだ。

<昨年の対戦>前期:法大3-0東海大、後期:法大6-3東海大

法大		東海大	
23. 三田	11. 清水	14. 塩田	2. 太田代
2. 宗近	9. 深町	4. 湯川	17. 西村
6. 星		11. 峯	7. 水橋
1. 四宮	28. 西室	29. 椎橋	8. 水野
4. 樋川	18. 鈴木	10. 廣瀬	23. 木村
8. 大野	14. 松本	9. 大村	

# 東京学芸大学 vs 東京農業大学

4月14日(日)  
13:50K.O.  
法大G

こちらも黒星スタートとなったチーム同士の対戦だ。2年ぶりの2部となる東学大と、3年ぶりに関東リーグに復帰した東農大との対戦は3年前のシーズン以来。当時は2試合とも東学大2-0の勝利だった。連敗は避けたい両チームだが、結果はいかに。

東学大は初戦、東国大に1-2で敗れた。1年での1部復帰を目指す気負いが、関東リーグ初登場となるチームの思い切りの良いプレーに屈するという典型的な試合となってしまった。試合開始直後にいきなり決定的なピンチを凌ぎ、先制点は奪ったものの4分後にセットプレーから同点。さらに35分には勝ち越し点を許した。「ファーストディフェンダーが中盤で相手の勢いを阻止しきれなかった」(西園聡史監督)。ボールを保持しつつも守備に比重を置く相手を崩し切れず、得点はFKからの1点のみ。2年前までの2部での戦いでも苦戦したような試合展開となってしまっただけに、決定的なシュートチャンスはどれだけくれるかが課題となりそう。

一方の東農大は、6年ぶりに2部リーグに降格してきた神大に1-3で敗れた。試合開始5分でいきなり直接FKを決められ、36分には追加点。39分に1点を返したものの、流れに乗り切れず後半さらに1点を許した。久々

の2部での試合、特に現在の選手たちにとってはほぼ初めての経験であり、「全体的に緊張していて、やりたいサッカーができなかった。後手後手になってしまった」と塩田健ヘッドコーチ。元1部チームのボール保持力に苦労した印象は否めないが、攻撃時には風の影響もあって攻め急いだ感もある。今節も昨季1部チームの東学大が相手となるが、まずは焦らずじっくり対応することが重要だ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		東農大	
5. 廣木	14. 佐藤	27. 加藤	18. 今野
2. 大里	7. 山崎	15. 小田原	6. 中垣内
10. 茶島		17. 岡庭	30. 矢口
12. 須賀	15. 菅	9. 相川	10. 浜田
4. 脇本	9. 岡	5. 櫻岡	
6. 久司	8. 佐々木	7. 伊東	2. 大野

\* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています\*

# JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

**if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM**  
Division2 2013-NO.2

編集:五味亜矢子 印刷:関東大学サッカー連盟 協力:関東大学サッカーサポーターズクラブ



## 駒大・青学大が4得点スタート!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグが一斉に開幕した。まず1部から降格してきた2チームの動向をみると、神大は3-1と3年ぶり関東復帰の東農大に快勝したが、東学大は関東初昇格の東国大に1-2と苦杯を舐め、対照的なスタートとなった。また、駒大が東海大に、青学大が法大にそれぞれ4-1と大勝、関学大も平国大に3-0と3点差をつけての勝利。拓大は朝鮮大からロスタイムに勝ち越し点を奪い、劇的な開幕戦勝利を飾った。

1部リーグへの2枚の昇格切符を巡る長い戦いが始まったが、関東リーグデビュー戦で東国大が初勝利を挙げるなど、今季も混戦が予想される。得点差のついた試合もあったが、この日は各地で強風が吹き荒れ、風を味方につけたかどうか試合の行方を左右した面もある。

得点ランキング	アシストランキング
2: 山本 大貴(駒大) 芦野 翔斗(神大) 1: 全17名	2: 恵 龍太郎(青学大) 1: 全13名

リーグは長丁場とはいえ、開幕から数試合は良い流れに乗れるかどうかの重要なゲームでもあり、今節も熱戦が期待できる。4得点で首位スタートとなった駒大と青学大がいきなり激突する試合が注目だ。なお、今季は夏場にユニバーシアード大会が行われるため、前期は5月までに9節を行う変則日程となっている。

## JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第1節終了時)

順位	2部	駒大	青学大	関学大	神大	東国大	拓大	朝鮮大	東学大	東農大	法大	東海大	平国大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点	
1	駒大		4/14	4/28	5/26	4/20	5/5	未定	5/19	5/3	未定	4○1	5/12	1	0	0	4	1	3	3
1	青学大	青学大G		5/3	5/6	未定	5/25	4/20	4/28	5/11	4○1	未定	5/19	1	0	0	4	1	3	3
3	関学大	BMWス	味フィ西		未定	5/5	未定	4/14	5/25	4/21	5/19	5/12	3○0	1	0	0	3	0	3	3
4	神大	東海大G	三ツ沢	未定		4/13	5/19	4/28	未定	3○1	5/12	5/4	4/20	1	0	0	3	1	2	3
5	東国大	駒陸	未定	フクアリ	ニッパツ		5/3	5/12	2○1	未定	4/27	5/19	5/26	1	0	0	2	1	1	3
6	拓大	荻野	青学大G	未定	青学大G	千葉東総		1○0	5/11	4/27	4/21	未定	4/13	1	0	0	1	0	1	3
7	朝鮮大	未定	江戸陸	青学大G	三ツ沢	東海大G	0●1		5/3	5/19	5/26	5/6	未定	0	1	0	0	1	-1	0
8	東学大	朝鮮大G	麻溝	青学大G	未定	1●2	味スタ西	江戸陸		4/14	未定	4/20	5/5	0	1	0	1	2	-1	0
9	東農大	保土ヶ谷	たつこ	法大G	1●3	未定	法大G	朝鮮大G	法大G		5/5	5/26	未定	0	1	0	1	3	-2	0
10	法大	未定	1●4	東海大G	法大G	法大G	法大G	朝鮮大G	未定	たつこ		4/14	保土ヶ谷	0	1	0	1	4	-3	0
10	東海大	1●4	未定	東海大G	荻野	東海大G	未定	たつこ	荻野	東海大G	法大G		荻野	0	1	0	1	4	-3	0
12	平国大	法大G	青学大G	0●3	荻野	朝鮮大G	ニッパツ	未定	たつこ	未定	5/3	4/28		0	1	0	0	3	-3	0



体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。 <http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>

# 拓殖大学 VS 平成国際大学

4月13日(土)  
11:30K.O.  
ニッパツ

初戦を勝利で飾った拓大に対し、黒星スタートとなった平国大との対戦。拓大はロスタイムの劇的な得点で2年ぶりの開幕戦勝利となったが、逆に言えばロスタイムまで攻め切れなかった印象もあり、平国大は試合開始早々のチャンスを生かせず零封された。攻撃面でリズムをつかむのはどちらか。

拓大の初戦は朝鮮大との対戦。昨季は3-4というスコアもあったカードだが、今回はお互いスコアレスのまま進む試合展開。両チームとも昨季の課題であった守備面の改善は見られたが、玉井朗監督は「結果は良かったが、ボールを持って時間をかけ過ぎて攻撃の積極性がなかった」と不満の表情。確かに拓大の良さを出せたとはいえない内容ではあった。しかし、昨季1年をケガで棒に振ったMF菅原慶人(3年)の復帰は明るい材料で、守備面ではGK大坪倫之(4年)の好セーブが光った。「失点0に抑えられたのはよかった。ボールを保持して勝つことを目指したい」(GK小林将也主将・4年)。

一方の平国大は、初戦で関学大に0-3の敗戦を喫した。前半は風上を取ったことで先手を取るべく押し込んだが、いきなりつくり出した決定的なチャンスを逃すと3分、逆に前がかりになっていた裏を突かれて先制点を

許す。32分にも追加点を奪われると、後半は猛攻を仕掛けたものの得点には至らなかった。3点差はついたが、西川誠太監督は「ツキがなかった。実際の点差ほど差があるとは思っていない」と分析。強風の中で攻め急ぐ場面も見られただけに、リードされても冷静に対応したい。「長いリーグ戦なので、割り切って次の試合に向けてやっていく」(西川監督)。

<昨年の対戦>前期/拓大1-2平国大、後期/拓大3-1平国大

拓大		平国大	
24. 谷川	16. 増田	8. 増田	2. 須藤
26. 大森			6. 本田
4. 菊野	14. 菅原	19. 玉田	1. 小池
7. 川崎	22. 河野	18. 星子	7. 佐藤
1. 大坪	6. 小野		5. 鎌田
	25. 紙谷	9. 堀越	13. 竹内
	20. 片		
	16. 多田		

# 関東学院大学 VS 朝鮮大学校

4月14日(日)  
11:30K.O.  
青学大G

初戦を3-0で快勝した関学大と、ロスタイムの失点で惜敗した朝鮮大との対戦。昨季は関学大の2勝となっているが、朝鮮大の反撃はなるか。

平国大との初戦を3-0でモノにした関学大。試合開始早々のピンチをGK守山健二(4年)の好守で防ぎ、3分に先制点を奪い、32分に追加点。さらに後半にダメ押し点を奪うという理想的な展開だったかに見えるが、石村大監督は「守備は身体を張ってきたと思うが、攻撃ではもっと意図的にトライしていかなければいけない」と反省を口にした。風上の勢いで押し込んだ相手に対してカウンターが鮮やかに決まった形は、強風の中ではこれも狙い通りのものだろうが、特に風上に立った後半は主体的に仕掛けるシーンが欲しかったのも確か。終盤の相手の猛攻に耐え無失点で終えたことは評価できるだけに、3-0というスコアに気を緩ませることなく、今節に臨みたい。

対する朝鮮大は初戦、拓大と対戦しスコアレスドローに終わるかと思われたロスタイムに1点を奪われ、0-1で敗れた。シュート数は互角だったうえ決定的なチャンスを相手GKの好守で防がれるなど、「決めるところを決めていれば」という惜敗であった。全体的に見れば、

大量失点が多く大苦戦した昨季の課題が、メンバーが大幅に変わった中でどう改善されているかが注目だったが、金載東監督が「朝鮮大らしさを出すために一から出直す1年の初戦、次につながる戦いだった」と話したように、攻撃の積極性など随所に可能性が見られた。「内容的に悪くなかった。運動量を生かしていきたい」(MF任良太主将・4年)。得点につなげる形を多くつくりたい。

<昨年の対戦>前期/関学大2-1朝鮮大、後期/関学大2-0朝鮮大

関学大		朝鮮大	
32. 吉田	24. 鄭壯輝	12. 姜光	3. 李教俊
9. 富樫		14. 朴利基	1. 李在根
3. 土館	11. 萱沼	21. 康貴成	
23. 長谷川		10. 周祐慶	22. 慎鏞紀
1. 守山	7. 太田	17. 高志煌	2. 李永照
	4. 久保		
	8. 山本		
	5. 山口		
	10. 橋村		

# 神奈川大学 VS 東京国際大学

4月13日(土)  
13:50K.O.  
ニッパツ

6年ぶりの2部リーグの初戦を快勝した神大と、関東リーグのデビュー戦を飾った東国大という興味深い対戦だ。昨季1部リーグのチームでボール保持能力のある東学大に対し、厚い守備と鋭いカウンターで勝利した東国大が、どのような戦いを見せるか。

久々に関東リーグに戻ってきた東農大を3-1と一蹴した神大。「緊張がありミスも多かった」(高峯弘樹監督)とはいうものの、開始5分でDF高木利弥(3年)が直接FKを決めて流れをつかみ、36分にも追加点を奪うなど、細かなパス回しから攻撃のリズムをつくった。GKから1点は許したものの、相手のカウンターやロングボールに対する守備は冷静に対応し、1部で5年を過ごしてきた貫録を見せた初戦だったと言える。高峯監督が「苦しかった時にどうするか」という一番大事な昨季の反省を生かせた」と話したように、全体的なゲームコントロールにアドバンテージがあったのは事実。今節、勢いのあるニューフェイスに対してどう戦うか注目だ。

その東国大は、初戦でいきなりチームの歴史を飾る関東リーグ初勝利を挙げた。試合前は緊張もあったようだが、東学大に対して試合開始直後から積極的に攻め込み、相手GKに防がれたものの決定的なチャンスをつくった

ことが緊張を和らげた。15分にFKから先制点を許しても下を向くことなく、4分後にセットプレーから同点弾。さらに35分にはシュートカウンターから逆転ゴールを奪い、2-1で勝利した。「レベルの高いチームには守備をきちっとしないと勝てない。点の取り方もトレーニングしてきたことができた」(前田秀樹監督)。2戦目の戦い方も、狙い通りの展開に持ち込めるかどうか。「これを続けていくことが大事」(DF阿部正紀主将・4年)。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大		東国大	
3. 高木	2. 伊東	11. 高橋	3. 阿部
22. 伏木			10. 若井
2. 柿崎	14. 芦野	19. 谷口	21. 今野
16. 前田			26. 佐伯
1. 松田	7. 長野	9. 福島	5. 川島
	5. 杉山	17. 小玉	6. 鹿糠
	8. 須郷		
	15. 湯澤		

# 駒澤大学 VS 青山学院大学

4月14日(日)  
13:50K.O.  
青学大G

初戦を4-1で勝利した同士、同率1位スタートとなった駒大と青学大との注目の対戦。一昨年の1部リーグからともに降格してきた両チームの昨季の対戦は3-3、2-3という得点の多い試合で、初戦から大量得点を取ってきただけに、今回も点の取り合いとなるか。

まず駒大は、試合開始序盤から終始主導権を握り、リードを保って4-1で東海大に勝利した。シュート数も13-6と、昨季、久々の2部リーグで発揮し切れなかった破壊力を初戦から見せ付けた。「前半から前線でボールを保持できたのが良かった」(秋田浩一監督)。FW山本大貴(4年)が2得点と活躍し、「ボールも人も動くサッカーを目指す」(秋田監督)という中で、特に縦に早く仕掛ける駒大らしい力強さが初戦から威力を見せたといえる。守備面では、昨季は失点すると一気に形勢が苦しくなる試合展開が多かったが、初戦は1失点で凌いだ。点の取り合いとなっても勝ち切れる勝負強さを見せられるかどうか。

対する青学大は、攻撃力のある法大に対して4-1の勝利。10分に先制し、20分に一度は追いつかれたものの、風上に立った後半に入って3点を奪った。こちらもシュート数は14本を数えた。「開幕戦であり、強風とい

う難しい試合だったが、前にボールを動かすということも継続できたのが良かった」(宮崎純一監督)。前半、法大の早いプレッシャーに苦しみながらも我慢できたことが、後半の猛攻につながったといえる。昨季は最終的に10位と悔しい結果に終わっただけに、今季どこまで巻き返せるかは興味深い。昨季は大量失点の試合が多かったが、まずは駒大に対して攻撃で主導権を握りたい。

<昨年の対戦>前期/駒大3-3青学大、後期/駒大2-3青学大

駒大		青学大	
3. 田中	3. 早田	18. 関谷	16. 京谷
14. 中村		28. 伊藤	6. 高山
5. 伊藤	10. 山本	34. 角宮	12. 山田
6. 若山			33. 佐藤
1. 大石	7. 碓井		4. 中村
	4. 平尾		22. 恵
	11. 小牧		20. 服部
	31. 鈴木		